

**第6次東浦町総合計画策定に向けた
第5次東浦町総合計画の評価について**

平成30年6月

東 浦 町

はじめに —第6次東浦町総合計画策定に至った経緯—

東浦町では将来の都市像「笑顔と緑あふれるいきいき都市」の実現に向け、平成23年度から平成32年度までを計画期間とする第5次総合計画に基づき、5つの施策を柱として市制施行を踏まえた新たなまちづくりに取り組んできました。

第5次東浦町総合計画策定時には、既に少子高齢化の進展は懸念されておりましたが、本町も含まれる名古屋都市圏では、当面は社会増による人口増加傾向を維持することができるとの想定のもと計画を策定いたしました。

計画期間の最終年度の人口見通しを53,000人に設定しておりましたので、計画期間内での市制施行を見込んだ総合計画としました。

しかし、策定当時は社会増（町外からの転入者の増加）による人口増加を見込んでいましたが、計画期間半ばの平成27年国勢調査では49,230人と人口が減少（前回H22比670人減）に転じました。平成20年のリーマンショック以降、長期の景気後退により、雇用環境が悪化したこと、行政、民間による宅地開発が減速したことが、見込んでいた人口の社会増に至らなかった要因と考えています。結果として、年少人口（0～14歳）・生産年齢人口（15～64歳）の減少と老年人口（65歳以上）の増加が想定よりも早く進んでいることが明らかになりました。

そうした状況の中、まちづくりにおいては健康・福祉・医療・子育て・教育・環境・防災・防犯・基盤整備・産業振興・地域経営といった各分野において、概ね着実に計画に基づく取組を進めてきました。

第5次総合計画の中間年にあたる平成27年度には中間評価の実施とともに、各施策の評価指標の見直しも行い、毎年度、行政評価の実施により進捗管理を行っています。

しかし、第5次総合計画策定時の想定より早い人口減少及び高齢化率の上昇に伴い、生産年齢人口の減少による労働力不足や経済活動の縮小、後期高齢者の増加による医療・介護サービスの需要増への対応といった、将来的な新たな課題が明らかになっており、これらの課題に向けた対応が必要となっています。

こうした新たな課題への対応のため、施策の方向性を大きく見直す必要があると判断し、現行計画の期間を2年間残していますが、計画期間を前倒しし、第6次東浦町総合計画の策定に着手することといたしました。

そこで、第5次東浦町総合計画の計画期間内ではありますが、第6次総合計画に向けた課題の把握等を目的に現行計画の評価をまとめました。

1. 評価の目的

本評価書は、総合計画の改定に伴い第5次東浦町総合計画（平成23年度～平成32年度）における施策評価を行うものです。平成28年度までの事業実績の分析及び平成26・29年度の住民意識調査結果等の検証により、次期総合計画策定に向けた課題等をまとめました。評価対象である第5次東浦町総合計画の施策体系は次のとおりとなっています。なお、成果指標は平成27年度に見直しを行っています。

【第5次東浦町総合計画の施策体系】

節	項	推進施策
第1節 健康で生きがいのある 暮らしづくり (健康・福祉・医療)	第1項 健康・医療	1.健康づくり 2.地域医療保健
	第2項 社会福祉	1.地域福祉 2.高齢者福祉 3.障がい者福祉 4.児童・母子・父子福祉
	第3項 社会保障	1.健康保険 2.福祉医療
第2節 豊かな心をはぐくむ 人づくり (子育て・教育)	第1項 次世代育成	1.子育て支援 2.学校教育 3.青少年の健全育成
	第2項 生涯学習	1.生涯学習 2.スポーツ振興 3.文化振興
第3節 安全安心な 生活環境づくり (環境・防災・防犯)	第1項 環境共生	1.地球温暖化防止 2.公害 3.廃棄物 4.自然環境保全
	第2項 安全安心	1.河川治水 2.防災 3.消防・救急 4.交通安全 5.防犯
第4節 快適な暮らしを支える 基盤づくり (基盤整備・産業振興)	第1項 市街地形成	1.市街地 2.公園・緑地
	第2項 交通体系	1.道路交通 2.公共交通
	第3項 上下水道	1.水の安定供給 2.下水処理
	第4項 産業振興	1.農業振興 2.工業振興 3.商業振興 4.観光振興 5.勤労・消費生活
第5節 自立した地域経営の 仕組みづくり (地域経営)	第1項 共生・協働	1.住民協働 2.コミュニティ活動 3.広報・広聴 4.共生・交流
	第2項 行財政運営	1.行政運営 2.財政運営 3.広域連携 4.地域情報化

2. 推進施策の概観

施策Ⅰ 健康で生きがいのある暮らしづくり（健康・福祉・医療）

（1）施策の方向

①健康・医療

- ・住民の健康意識を高め、健康づくりを推進します。
- ・疾病予防対策の充実を図るため、各種検診事業を推進します。

②社会福祉

- ・一人ひとりに応じた福祉サービスを提供します。
- ・地域で支える福祉活動を支援します。

③社会保障

- ・だれもが健康で文化的な生活を送ることができる社会保障制度の確立をめざします。

（2）施策の主な成果

健康づくりにおいては各種検診の受診啓発や介護予防事業の実施に加え、住民自ら率先して健康づくりに取り組めるよう各種健康づくり同好会への加入促進や高齢者を対象としたいきいきマイレージなどの取組みを推進しました。

地域福祉の分野においては、地域で支え合う協働の取組により、ふれあいサロン事業や認知症サポーター養成事業を通じて、住民も参画した地域福祉活動の促進を図っています。また、地域包括支援の仕組みづくりを社会福祉協議会や地域とともに取り組み、地域における居場所づくりや在宅でも安心して暮らせる仕組みが定着しつつあります。

（3）今後の課題

高齢化社会の進展により、医療や介護を必要とする高齢者数が増加する中、日常的な健康づくりによる健康寿命の延伸に関する取組の継続とともに、地域における支え合いの定着が必要です。

また、健康づくりについては高齢者を対象とした取組を重視してきましたが、生涯を通じた健康づくりのためには、全世代を対象とした取組が求められています。

施策Ⅱ 豊かな心をはぐくむ人づくり（子育て・教育）

（１）施策の方向

①次世代育成

- ・地域と連携した子育て支援体制の充実を図ります。
- ・「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をはぐくむ教育を推進します。

②生涯学習

- ・生涯にわたり文化活動やスポーツ活動に取り組むことができる機会の充実を図ります。

（２）施策の主な成果

平成 23 年度に子育ての支援拠点施設「うららん」を開設し、平成 30 年度には同施設内に、妊娠から子育て期までの切れ目ない相談・支援をワンストップの窓口で行う子育て世代包括支援センターを開設し、子育て支援に取り組んでいます。

教育の分野においては各小学校の地域性や特色を活かした体験活動等を実施しています。また、教員を志望する学生ボランティアをスクールパートナーとして、小学生の個別学習指導や特別支援学級等での個別支援、校外学習のサポートなど、教員の人材育成と子どもへきめ細やかな学習支援を行う取組を実施しています。また、ドライ方式による衛生的な調理設備を備えた給食センターを更新し、地産地消による食育の推進や児童生徒のアレルギーに対応した給食の提供等、教育環境の改善に取り組んでいます。

生涯学習分野においては、文化センターを拠点とし、文化協会を中心とした住民の文化活動への支援を行っています。

郷土の歴史や文化を町内外に発信するため、ふるさとガイドボランティアの育成支援を行っています。

スポーツ振興の施策として、多世代、多種目、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できるといった特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営される総合型地域スポーツクラブを設立しました。

（３）今後の課題

子育て支援に関する施策を中心に取り組んできましたが、教育の本来の目的である子ども自身の育みを重視した施策にも重点を移しつつあります。今後も引き続き、子ども自身の育み「子育て」を重視した施策の継続が必要です。

生涯学習分野においては、文化活動、スポーツ活動ともに参加する住民のすそ野を広げる施策を展開する必要があります。

施策Ⅲ 安全安心な生活環境づくり（環境・防災・防犯）

（１）施策の方向

①環境共生

- ・ごみの減量化・資源化や再利用を推進します。
- ・住民の環境意識を高め、住民による環境保全活動を促進します。

②安全安心

- ・地域と連携した防災対策や消防活動体制の強化を図ります。
- ・交通安全意識の向上や地域ぐるみの防犯活動を推進します。

（２）施策の主な成果

環境負荷軽減と処理費用の削減のため、ごみの減量及び資源ごみの資源化の推進に取り組んでおり、ごみ減量の必要性、資源ごみの資源化に対する住民の協力は得られています。

東浦町の魅力の一つである緑豊かな環境の保全については、自然環境学習の森での活動を中心に行っています。

住民の安全安心の強化を図るため、防災対策については、西部防災倉庫の建設と常備消防の強化のため西部出張所を設置しました。また、各家庭における防災対策として、出前講座などでの啓発に加え、感震ブレーカーや耐震シェルターの設置を補助制度により促進しました。

日常的な安全安心の強化のため、交通安全教室の開催など住民意識の向上を図る施策を進めてきました。

（３）今後の課題

環境負荷軽減に向けたごみの減量及び資源ごみの資源化の推進は、継続的な取組が必要です。

自然環境保全については、在来種の減少と外来種の増加など、単なる保全のみではなく専門的な知識が必要な取組が求められています。

防災対策や常備消防の強化については、計画的な備蓄品の整備と設備の更新が必要です。また、常備消防を補完する消防団の団員確保も今後の課題となりつつあります。

交通安全対策の最終的な目標は事故件数の減少ではなく、事故をなくすことであり、継続的な交通安全意識の向上への取組とともに、事故多発箇所の分析等を通じて具体的な対策が求められています。

施策Ⅳ 快適な暮らしを支える基盤づくり（基盤整備・産業振興）

（１）施策の方向

①市街地形成

- ・都市基盤の整った魅力ある市街地を整備します。
- ・自然環境と調和した都市景観を形成します。

②交通体系

- ・幹線道路体系の整備、生活道路の拡幅や歩行空間の確保を図ります。
- ・町運行バス「う・ら・ら」の路線充実を図ります。

③上下水道

- ・水の安定供給や災害時における水の確保に努めます。

④産業振興

- ・農業・工業・商業・観光のバランスのとれた産業振興を推進します。

（２）施策の主な成果

市街地の形成にあたっては、有効活用を図るため、上割木地区、天白地区において土地区画整理事業に着手し住宅地の開発を進めるとともに、良好な生活環境の形成に向けて三丁公園の整備など、公園整備、都市緑化に取り組んでいます。

町運行バス「う・ら・ら」の利便性向上のため、停留所へバスロケーションシステムを導入しました。

上下水道の整備については、水の安定供給や水質保全のため計画的に事業を推進してきました。

産業振興については、小売業の店舗数等は減少しているものの、耕作放棄地の減少や東浦知多IC周辺の企業誘致などを進めてきました。

（３）今後の課題

今後、人口減少を緩やかにするため、働く場の確保、地域内経済活動の活性化に繋がる企業誘致と転入者を受け入れるための土地区画整理事業等の宅地開発を進めることとしていますが、全国的に人口減少が進む中、遅れば遅れるほど施策の目的達成が困難なため、速やかに進める必要があります。

既成市街地での空き家対策が新たな課題となりつつあり、現在、その対応に向けた計画を策定しています。計画策定後の速やかな実行が求められます。

幹線道路、生活道路の整備については、単に交通の利便性の確保に留まらず、産業振興や住民の安全の確保にも繋がるため計画的な実施が求められています。

上下水道の整備については、住民の生活に欠かせないライフラインであることから、計画的な施策の推進と安定した経営が引き続き求められます。

産業振興のうち、農業については、雇用と所得の確保のため、6次産業化の推進が求められています。

施策Ⅴ 自立した地域経営の仕組みづくり（地域経営）

（１）施策の方向

①共生・協働

- ・地域・住民と行政が協力・連携し、互いに支え合う共生・協働のまちづくりを推進します。
- ・コミュニティ活動の活性化やNPO・ボランティアの活動支援を行います。

②行財政運営

- ・効率的かつ効果的な行財政運営を進めます。
- ・新たな行政需要に対応できる組織体制を確立します。
- ・行政や地域の課題に積極的に挑む職員の育成に努めます。

（２）施策の主な成果

第5次東浦町総合計画において初めて取り入れられた協働の推進は、住民のボランティア活動をはじめ、様々な住民活動を支援し、活動の拠点となる総合ボランティアセンターなどないろの開設により活動の活性化が図られ、様々な活動が住民主体で行われるようになってきました。町内各地区の地域コミュニティにおいては、地域が主体となって、交通安全対策や災害時の避難経路作成など課題解決型の活動に取り組まれています。

行政運営においては、行政の透明化の確保に向けて、情報公開やコンプライアンス、公益目的通報制度などを整えました。また、行政評価システムの見直しを行い、各施策、各事業の内容を詳細に評価するとともに、PDCAサイクルの中でも、疎かになりがちなチェックとアクションに重点的に取り組みました。外部評価の仕組みも取り入れ様々な視点から事業の見直し、改善に取り組み、業務の進捗状況を公表しています。

（３）今後の課題

地域に根付きつつある、住民主体の活動については定着できるよう、引き続き支援していく必要があります。また、少子高齢化の進展状況が地域ごとに異なるように、地域により異なる課題に対し、きめ細やかな対応が行政には求められることから、行政の行う施策について、検討段階から住民が参画できる仕組みづくりが求められます。

行財政運営については、少子高齢化の進展による社会保障費の増加や、老朽化しつつある公共施設の長寿命化や更新など、今後、予想される大規模な歳出に対応し持続可能な行政経営が求められます。

3. 推進施策の評価

第1節	健康で生きがいのある暮らしづくり (健康・福祉・医療)		第1項 推進施策	健康・医療 1 健康づくり			
担当課	健康課	関係課	福祉課、児童課、保険医療課、農業振興課、生涯学習課	総合計画書 掲載ページ	58～61		
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> 子どもから高齢者まで、元気でいきいきとして暮らす住民が増え、健康寿命を延ばし、活力のある地域となっています。 病気を持っていて、重症化せず、地域で健康に暮らせるようになっています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	健康づくり・疾病対策への取組に満足している人の割合	%	41	44.7	44.6	50	89%
②	特定健康診査受診率 【⑥に変更】	—	—	—	—	—	—
③	各種健康づくり同好会数	団体	48	49	49	50	98%
④	メタボリックシンドローム該当率	%	30.2	18.1	19.2	18	107%
⑤	食育の関心率【⑦に変更】		—	—	—	—	—
⑥	特定保健指導終了率 【追加】	%	—	52.8	58.6	60	98%
⑦	食育について興味や関心がある人の割合 【追加】	%	—	81.1	—	85	—
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							98%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	(変更なし)					
	②	⑥に変更する。					
	③	会員の高齢化等に伴い、縮小傾向にあることから、目標値の下方修正を行うこととし、現状維持に近い数値を設定する。					
	④	直近5年では 18～19%で上下しており、今後大幅な減少は見込まれないことから、現状を維持することを目標とし、目標値を 18%とする。					
	⑤	⑦に変更する。					
	⑥	②に代えて、「特定保健指導終了率」を指標に採用する。 特定保健指導終了率の実績値は 52.8%で、県内で高い率にあるものの、国の目標値が 60%以上であることから、これを目標値に設定する。					
⑦	⑤に代えて、健康プランアンケート調査より、食育について興味や関心がある人(「おおいにある」「多少ある」と回答した人)の割合を採用する。						
住民の 評価	満足度	【H20】 41.0% 【H26】 44.7% 【H29】 44.6% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】+3.6%					
	改善度	【H26】0.40 【H29】0.46					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 98% (中央値 89%) と高く、住民満足度についても平成 20 年からも 3.6% 上昇しており平成 29 年度評価では 44.6% (中央値 24%) と高く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、若年層を中心に住民の中には、健康への意識が低い方が見受けられるなか、全ての年代を巻き込んだ取組みが不足しています。また、国、県と比較し、メタボ該当者率が高い状況がみられることから、将来の生活習慣病、認知症などを発症するリスク軽減に向け改善が望まれています。</p>						

第1節	健康で生きがいのある暮らしづくり (健康・福祉・医療)		第1項	健康・医療				
			推進施策	2 地域医療保健				
担当課	健康課	関係課	—		総合計画書 掲載ページ	62～63		
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内医療機関の充実と第2次・第3次救急医療施設との適正な分業が図られ、住民が安心して医療が受けられる体制が整っています。 ・ 保健センターとあいち健康プラザの連携による人材育成や保健施設の充実により、住民の健康を守る体制が整っています。 							
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	保健施設・医療機関に満足している人の割合	%	35.7(H20)	45	45.3	50	91%	
②	あいち健康プラザでの各種教室の参加者数	人	270	350	86	100	86%	
③	刈谷豊田総合病院における、かかりつけ医の紹介状持参による受診者	団体	—	2,801	3,275	4,376	75%	
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								82%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
	①	(変更なし)						
	②	平成 25 年度より、あいち健康プラザ健康づくり教室受講支援事業の利用対象が、毎年度1回から5年度毎に1回に変更となったため、目標値を変更する。 目標値は、5年間の累計人数を 450 人とし、これを1年間の平均に換算した値をもとに 100 人/年とする。						
	③	満足度との相関関係を補完するため、「地域医療の充実」の視点からの新たな指標として、かかりつけ医の定着度に関する指標を設定する。目標値は、過去3年間の増加数の平均が 315 件であることから、それに年数をかけた 4,376 人とする。						
住民の 評価	満足度	【H20】 35.7% 【H26】 45.0% 【H29】 45.3% ⇒ 満足度変【H29/H20】 9.6%						
	改善度	【H26】0.42 【H29】0.45						
評価	成果指標の目標達成率は平均値で 82%(中央値 89%)と若干低いものの、住民満足度については平成 20 年から 9.6%上昇しており平成 29 年度評価では 45.3%(中央値 24%)と高く評価されています。全体でみると、住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、今後も住民が安心して医療が受けられる体制を整えていくことが求められます。							

第1節	健康で生きがいのある暮らしづくり (健康・福祉・医療)		第2項	社会福祉				
			推進施策	1 地域福祉				
担当課	福祉課	関係課	協働推進課		総合計画書 掲載ページ	64～66		
施策が目指す 将来の姿	・民生委員・児童委員や地域住民、さまざまな福祉関係機関が連携して、みんなで支え合う福祉文化を構築し、自立生活が困難な個人や家族が、自立生活ができる地域となっています。							
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	ボランティア登録団体数		団体	42	67	71	79	90%
	ボランティア登録団体会員数【変更】		—	—	—	—	—	—
②	ふれあいサロンの拠点数		か所	11	15	17	26	65%
③	地域福祉に満足している人の割合 【追加】		%	—	28.4	28.1	34	83%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								79%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
	①	ボランティア登録団体数は、平成 26 年度は総合ボランティアセンターの開所もあり、1年間に2団体増加することを目標として 79 団体を設定する。						
	①	ボランティア登録団体会員数は、年度により変動が大きく、重複して登録している人も多くいることにより指標としてふさわしくないため、採用しないこととする。						
	②	ふれあいサロンの拠点数の目標値は、今後高齢者が増えることを考慮し、平成 32 年度の 65 歳以上人口 13,012 人の1割(1,300 人)が1サロンあたり 50 人利用するとして、26 か所と設定する。						
	③	平成 26 年度に行った「東浦町住民意識調査」に「地域福祉に満足している人の割合」があることから、採用する。 目標値は、平成 26 年度の実績値 28.4%の2割増と想定し、34%とする。						
住民の 評価	満足度	【H26】 28.4% (H20 調査なし) 【H29】 28.2% ⇒ 満足度変化率【H29/H26】 -0.2%						
	改善度	【H26】0.28 【H29】0.32						
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 79% (中央値 89%) と若干低いものの、住民満足度については平成 29 年度評価では 28.1% (中央値 24%) と若干高い評価となっています。</p> <p>全体で見ると、住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、少子高齢化により、家族による要支援者への生活支援が困難になってきており、行政だけでなく、住民や関係機関と協力し、要支援者を支えていく地域福祉活動の促進していくことが求められてきています。また、地域関係のつながりが希薄となり、地域内で、住民の孤立が起きてきており、住民がつながり、みんなが安心して暮らせる地域づくりのため、住民同士や各団体の協力体制を作っていくことが望まれています。</p>							

第1節	健康で生きがいのある暮らしづくり (健康・福祉・医療)		第2項	社会福祉				
			推進施策	2 高齢者福祉				
担当課	福祉課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	67～69	
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を地域全体で支えるネットワークが強化され、地域ケア体制が整い、介護に関わる課題が解決されています。 ・高齢者の社会参加できる機会が整い、高齢者の孤立感が解消され、高齢者が生きがいのある生活を送ることができる地域となっています。 							
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	高齢者福祉施策に満足している人の割合		%	19.7	25.3	26.8	30	89%
②	自立高齢者率		%	85.1	85	84	84	100%
③	シルバー人材センターの会員数		人	446	444	413	472	88%
④	「老人憩の家」の利用者延べ人数【追加】		人	—	36,173	31,438	39,000	81%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								89%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
	①	(変更なし)						
	②	<p>原則としては見直しが求められる指標であるが、「自立高齢者率」は、第6期知多北部広域連合介護保険事業計画においても指標として設定されていることから、第5次東浦町総合計画の指標としても維持することとする。</p> <p>目標値は、第6期知多北部広域連合介護保険事業計画との整合性を図るために、その推計数値をもとに84%とする。</p>						
	③	<p>原則としては見直しが求められる指標であるが、シルバー人材センターは、高齢者が働くことを通じて、地域社会への貢献とともに、自らの生きがいを得られるようにすることを趣旨としており、「高齢者の社会参加と生きがい活動の推進」という基本事業の方針との関係が強いことから、指標として維持することとする。</p> <p>目標値は、平成32年の60歳以上人口推計値15,442人に平成26年の60歳以上に占めるシルバー会員割合(0.0308)を乗じた数値とする。</p>						
	④	<p>満足度との相関性を考慮し、新たな指標として「老人憩の家」の利用者延べ人数を追加する。</p> <p>目標値は、過去5年の老人クラブ会員数における利用者人数の割合(112%)を基に、平成32年度の老人クラブ会員推計数2,452人とする。</p>						
住民の 評価	満足度	【H20】19.7% 【H26】25.3% 【H29】26.8% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】+7.1%						
	改善度	【H26】0.26 【H29】0.33						
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で89%(中央値89%)と一定の成果をあげており、住民満足度についても平成20年からも7.1%上昇しており平成29年度評価では28.6%(中央値24%)と平均より若干高くなっています。</p> <p>全体でみると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、高齢化により、買い物などの生活支援を必要とする人が増加してきており、高齢者の支援を地域全体で担う体制づくりが求められています。また、高齢者の生きがいにつながる老人クラブやシルバー人材センターの会員が減少してきており、高齢者の生きがいにつながる組織づくりや活動の活発化が望まれます。</p>							

第1節	健康で生きがいのある暮らしづくり (健康・福祉・医療)		第2項	社会福祉			
			推進施策	3 障がい者福祉			
担当課	福祉課	関係課	—		総合計画書 掲載ページ	70~72	
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の理解や生活支援サービスの充実により、障がい者が地域の中で自立した生活ができるようになっていきます。 ・活動機会の充実、就労の場の拡大により、障がい者の社会参加が進んでいます。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	障がい者福祉施策に満足している人の割合	%	14.4	17.3	18.5	25	74%
②	グループホーム利用者数【変更】	人	17	29	34	32	106%
③	就労支援系サービス利用者数	人	6,779	19,577	20,521	23,400	88%
④	「地域活動支援センター事業」の実利用者数【追加】	人	—	16	18	22	82%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							87%
指標の見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	(変更なし)					
	②	ケアホームは平成 26 年度にグループホームに一元化されているため、グループホーム利用者数に変更する。 グループホーム利用者数が平成 27 年9月現在 27 人であることから、目標値は1年度当たり1人増加と想定し 32 人とする。					
	③	就労支援系サービス利用者数は平成 27 年9月現在 10,617 人であることから、平成 27 年の見込を 21,000 人とし、以降1年当たり 480 人(2人×20日×12か月)増加と想定し、目標値を 23,400 人とする。					
	④	満足度との相関関係を補完するため、新たな指標として「地域活動支援センター事業」の実利用者数」を追加する。 目標値は、平成 26 年度の実績値が 16 人であり、1年度当たり1人増加と想定し 22 人とする。					
住民の評価	満足度	【H20】 14.4% 【H26】 17.3% 【H29】 18.5% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】+4.1%					
	改善度	【H26】0.26 【H29】0.21					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 87%(中央値 89%)と標準的な評価となっており、住民満足度についても平成 20 年からも 4.1%上昇しているものの平成 29 年度評価では 18.5%(中央値 24%)と低い評価となっています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、社会との接点がなく、家に閉じこもっている障がい者が多くなっており、障がい者の社会参加を進める仕組みが求められてきています。また、障がい者の方々が希望するサービスを受けられない場合がみられることから、障がい者のニーズに応じて、適切なサービスを提供する体制をつくっていくことが望まれます。</p>						

第1節	健康で生きがいのある暮らしづくり (健康・福祉・医療)		第2項	社会福祉			
			推進施策	4 児童・母子・父子福祉			
担当課	児童課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	73～75
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・各種支援制度と就労促進により、ひとり親家庭の生活が安定し、子どもが健全に育っています。 ・地域で連携して児童虐待を防止し、子どもが健全に育っています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	就業相談受付家庭の就業実績率	%	40	17	33.3	40	83%
②	児童虐待件数 【③に変更】	—	—	—	—	—	—
③	児童虐待対応相談件数【追加】	件	—	3	9	10	90%
④	児童・母子・父子福祉施策に満足している人の割合【追加】	%	—	19.7	21.3	25	85%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							86%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	目標値は、平成 20 年度から平成 26 年度までの就業実績率が 25%から 40%で平均 33%となっていることから、平均値を上回る数値で、最大実績率である 40%とする。					
	②	③に変更する。					
	③	②に代えて、児童虐待を未然に防ぐ観点から「児童虐待対応相談件数」を指標に採用する。					
④	平成 26 年度に行った「東浦町住民意識調査」に児童・母子・父子福祉施策の満足している人の割合が追加されたことから、指標として採用し、目標値は、同意識調査の子育てに対する支援満足度指数の上昇率を参考に設定する。						
住民の 評価	満足度	【H26】 19.7% (H20 調査なし) 【H29】 21.3% ⇒ 満足度変化率【H29/H26】 +1.6%					
	改善度	【H26】0.21 【H29】0.26					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 86%(中央値 89%)と平均的な評価となっており、住民満足度についても平成 20 年からも 1.6%上昇したものの平成 29 年度評価では 21.3%(中央値 24%)と若干低い評価となっています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、ひとり親家庭の就労と子育ての両立が困難な家庭が多くなっていることから、就労支援や子育て支援の充実等、総合的な支援体制の構築が求められてきています。また、家庭内の問題など複雑な原因が多様に絡み合い、子どもの貧困などが発生しており、住民が連携して子育てを見守る体制と、相談できる場や情報の共有・提供できる場をつくっていくことが望まれています。</p>						

第1節	健康で生きがいのある暮らしづくり (健康・福祉・医療)		第3項	社会保障			
			推進施策	1 健康保険			
担当課	保険医療課	関係課	税務課、健康課			総合計画書 掲載ページ	76～77
施策が目指す 将来の姿	・安定した財源の確保と医療費の抑制により国民健康保険特別会計が健全に運営され、本町の国民健康保険被保険者に安定した医療給付が行われています。						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	滞納率(延べ納税義務者数に占める滞納者の割合)	%	10	10	9.8	8.5	87%
②	保険税収納率【①に変更】	—	—	—	—	—	—
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							87%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	原則としては見直しが求められる指標であるが、保険税の収納率を上げることは、国民健康保険制度の健全化にとって重要であることから、引き続き指標として設定する。 ただし、現在、保険税に関しては、「収納率」での目標値を算出していないため、基本成果指標は「収納率」から「滞納率(延べ納税義務者数に占める延べ滞納者数の割合)」に変更して採用する。					
	満足度	平成 26 年度に行った「東浦町住民意識調査」の「健康保険制度の満足度」では、東浦町国民健康保険以外の他保険制度(社会保険や共済組合などの被用者保険や、後期高齢者医療制度など)も含まれた調査となっているため、東浦町国民健康保険制度に限定して正しく回答(評価)されているか不明である。そのため、満足度による指標は採用しないこととする。					
住民の 評価	満足度	【H26】 30.4% (H20 調査なし) 【H29】 32.8% ⇒ 満足度変化率【H29/H26】 +2.4%					
	改善度	【H26】0.17 【H29】0.2					
評価	成果指標の目標達成率は平均値で 87%(中央値 89%)と平均的な評価となっているものの、住民満足度については平成 20 年からも 2.4%上昇しており平成 29 年度評価では 32.8%(中央値 24%)と高い評価となっています。 全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、今後も安定した財源確保に向け滞納者数の減少に向けた取組みを行っていくことが求められます。						

第1節	健康で生きがいのある暮らしづくり (健康・福祉・医療)		第3項	社会保障			
			推進施策	2 福祉医療			
担当課	保険医療課	関係課	福祉課、児童課			総合計画書 掲載ページ	78～79
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者や高齢者が経済的な心配をすることなく安心して医療が受けられ、健康的で安定した暮らしができる環境が整っています。 子育てのために医療が受けやすく、生み育てやすい環境が整っています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	医療費助成の受給者数	人	8,327	10,072	10,050	10,100	100%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							100%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	<p>原則としては見直しが求められる基本成果指標に区分されるが、医療費助成は重要な事業であることから維持するものとする。</p> <p>医療費助成の受給について、平成 26 年2月から精神障がい者助成対象が入通院とも全疾患に拡大となったため、目標値を変更する。</p> <p>目標値は、現状値(平成 26 年度)で推移すると見込まれることから 10,100 人とする。</p> <p>住民意識調査やアウトカム指標を使用するよりも、アウトプット指標で代理する。</p>					
	満足度	平成 26 年度に行った「東浦町住民意識調査」の「福祉医療施策の満足度」では、東浦町が行っている福祉医療施策に対して住民が評価しているか不明であるため、満足度による指標は採用しないこととする。					
住民の 評価	満足度	【H26】 22.0% (H20 調査なし)		【H29】 23.7% ⇒ 満足度変化率【H29/H26】 +1.7%			
	改善度	【H26】0.21		【H29】0.23			
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 100%(中央値 89%)と高くなっていますが、住民満足度については平成 20 年からも 1.7%上昇しているものの平成 29 年度評価では 23.7%(中央値 24%)と平均的な評価となっています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、障がい者への医療費負担が増加しており、障がい者への医療費の助成と適正な受診が求められています。また、子どもやひとり親家庭への医療費負担が増加しており、子どもやひとり親家庭への医療費の助成と適正な受診が望まれます。</p>						

第2節	豊かな心をはぐくむ人づくり (子育て・教育)		第1項	次世代育成			
			推進施策	1 子育て支援			
担当課	児童課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	84～86
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> 核家族化や女性の社会進出など、子育て環境の変化に対応したきめ細かい子育て支援事業に取り組み、子ども達が健やかに成長でき、保護者が安心して子育てのできる環境が整っています。 安心して楽しく子育てができる助け合い・支え合いの地域社会になっています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	子育て支援に満足している人の割合	%	22.7	27.2	30.3	35	87%
②	保育園・幼稚園などの指導施設の整備に満足している人の割合	%	29.6	28.6	29.9	40	75%
③	子育て支援事業への参加者数【④に変更】	—	—	—	—	—	—
④	ファミリーサポートセンター会員数【追加】	人	—	318	320	380	84%
⑤	ファミリーサポートセンター利用件数【追加】	件	—	1,630	601	1,711	35%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							70%
指標の見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	(変更なし)					
	②	目標値は、民間との連携により事業所内保育等で地域枠の受入増が見込まれるため、変更はしない。					
	③	中間実績値が目標値を大きく上回る成果を上げている。このことから、より子育て支援の実績に近い「ファミリーサポートセンター」の会員数(援助・依頼・両方)に変更する。					
	④	③のことから、「ファミリーサポートセンター会員数」を指標として採用する。 目標値は、年間 10～20 人の増減はあるものの毎年 10 人程度増加していることから 380 人とする。					
	⑤	④に加えて、「ファミリーサポートセンター利用件数」も指標として採用する。 目標値は、「東浦町子ども・子育て支援事業計画」と整合を図るため同計画の 1,711 人とする。					
住民の評価	満足度	【H20】 22.7% 【H26】 27.2% 【H29】 30.3% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +7.6%					
	改善度	【H26】0.35 【H29】0.37					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 70% (中央値 89%) と低いものの、住民満足度についても平成 20 年からも 7.6% 上昇しており平成 29 年度評価では 30.3% (中央値 24%) と高い評価となっています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、保育を必要とする 0 歳児から 2 歳児が増加しており、0 歳児から 2 歳児の保育を受け入れる対策が求められています。</p> <p>また、子どもと地域とのつながりが希薄化してきており、地域での子育てを支える環境や子育てを支援していくことが望まれます。</p>						

第2節	豊かな心をはぐくむ人づくり (子育て・教育)	第1項 推進施策	次世代育成 2 学校教育				
担当課	学校教育課、給食センター	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	87～89
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域が連携、協力しながら、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をはぐくむ教育が行われ、地域全体で次世代を担う人材が育っています。 ・時代に即した教育環境が整い、安心して通うことができる学校になっています。 ・地域との連携により、学校給食において地場産物が活用され、食に対する児童・生徒の関心と理解が深まっています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	小中学校の学校教育に満足している人の割合	%	25.8	25.7	26.6	26	102%
②	学校給食の地産地消率	%	44	45.8	48.4	48	101%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							102%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	目標値は、施設の老朽化が進むため満足度に影響するものと思われることから、平成 26 年度の実績値を上回る 26%とする。					
②	原則としては見直しが求められる指標であるが、施策が目指す将来の姿に「地域との連携により、学校給食において地場産物が活用され、食に対する児童・生徒の関心と理解が深まっています。」とあることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として維持する。 目標値は変更しない。						
住民の 評価	満足度	【H20】 25.8% 【H26】 25.7% 【H29】 26.6% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +0.8%					
	改善度	【H26】0.16 【H29】0.21					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 102% (中央値 89%) と高いものの、住民満足度については平成 29 年度評価では 26.6% (中央値 24%) と平均的な評価となっています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、経済的な理由により、就学困難な児童生徒が見られることから、全ての児童生徒が義務教育を受けられるようにしていくことが求められています。また、いじめ・不登校の児童生徒も見られることから、全ての児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるようにすることが望まれます。</p>						

第2節	豊かな心をはぐくむ人づくり (子育て・教育)		第1項	次世代育成			
			推進施策	3 青少年の健全育成			
担当課	生涯学習課、 児童課	関係課	学校教育課	総合計画書 掲載ページ	90～91		
施策が目指す将来の姿		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域、学校、行政が連携し、青少年を指導・助言できる指導者の育成が図られ、青少年が希望を持って健やかに成長できる環境が整っています。 ・放課後に子どもたちの安全で安心できる居場所があり、地域の方の参画を得て子どもたちと共に勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などが実施され、子どもたちが地域社会の中で心豊かで健やかに育っています。 					
基本成果指標【見直し】		単位	現状値 H21	中間実績値 H26	実績値 H28 ①	最終目標値 H32 ②	目標達成率 ①/②
①	児童館利用者数	人	114,678	128,803	139,995	134,000	104%
②	ジュニアリーダー登録者数 【④に変更】	—	—	—	—	—	—
③	児童クラブの定員に対する在籍人数の割合(10月1日現在)【追加】	%	—	72.3	78.4	81.6	96%
④	ジュニアリーダー主体の行事開催件数	件	—	11	11	11	100%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							100%
指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
指標の見直し	①	原則としては見直しが求められる指標であるが、基本事業の方針に掲げられた「子どもの居場所づくり」において、児童館運営事業は重要な役割を果たすことから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として維持することとする。 目標値は、中間実績値を踏まえて下方修正することとし、平成 22 年度から平成 26 年度の年間利用者増加数の平均値の2分の1の数値を毎年の増加数(1,000 人)と想定し 134,000 人とする。 (3,602 人+1,626 人+2,840 人+3,836 人)÷4×1/2=1,488 人⇒1,000 人					
	②	ジュニアリーダー登録者数は、1人の指導者が指導できる人数に限りがあり、指導者人数によるところが大きいことから④に変更する。					
	③	満足度との相関関係を補完するため、新たな成果指標として「児童クラブの定員に対する在籍人数(人数の減る10月1日現在)の割合」を追加する。 目標値は、東浦町子ども・子育て支援事業計画の見込み量から 81.6%とする。					
	④	②代えて「ジュニアリーダー主体の行事開催件数」を指標とする。 目標値は、月1件(募集時期の4月を除く。)の活動を維持するものとし、11件とする。					
	満足度	青少年の健全育成に関しては、住民による評価がしづらいと考えるため、満足度による指標は採用しないこととする。					
住民の評価	満足度	【H26】13.6% (H20 調査なし)		【H29】17.8% ⇒ 満足度変化率【H29/H26】 +4.2%			
	改善度	【H26】0.07		【H29】0.17			
評価	成果指標の目標達成率は平均値で 100%(中央値 89%)と高いものの、住民満足度については平成 29 年度評価では 17.8%(中央値 24%)と低い評価となっています。 全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、青少年と地域の関わりが薄くなっていることから、地域と行政が連携した健全育成の取組を行っていくことが求められています。						

第2節	豊かな心をはぐくむ人づくり (子育て・教育)	第2項 推進施策	生涯学習 1 生涯学習			総合計画書 掲載ページ	92～94
担当課	生涯学習課、 図書館	関係課	—				
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館では、学習成果の活用、サークル活動等、住民の自主的な学習活動が盛んに行われています。 ・図書館は、資料や情報などの知を集積して、住民に幅広い学習機会や文化交流の場を提供し、未来を担う自立した住民を育成する文化拠点としての役割を果たしています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値 H21	中間実績値 H26	実績値 H28 ①	最終目標値 H32 ②	目標達成率 ①/②
①	生涯学習活動に満足している人の割合	%	22.6	20.1	20.6	30	69%
②	社会教育施設の充実に満足している人の割合	%	41	33.7	35.7	45	79%
③	各種教室・講座参加者数【⑤に変更】	—	—	—	—	—	—
④	住民一人当たりの図書貸出し点数【⑥に変更】	—	—	—	—	—	—
⑤	各種教室・講座参加率【追加】	%	—	68.6	59	85	69%
⑥	図書館入館者数【追加】	人	—	162,065	161,693	165,000	98%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							79%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	目標値は、平成 26 年度実績値が平成 21 年度と比較し、2.5%の減となっている現状を踏まえ、平成 27 年度目標値 30%を平成 32 年度目標値とする。					
	②	施設の建て替えは行えない状況であるが、トイレ改修等で利用しやすい施設に替えていくことにより利用者の満足度は増加するものと考えられることから、平成 26 年度実績値が平成 21 年度と比較し、7.3%の減となっている現状を踏まえ、平成 27 年度目標値を平成 32 年度目標値とする。					
	③	講座等を趣味的講座から専門的講座へ移行したことによる講座数の減少により、定員数も減少となり、それに伴い参加者数も減少となるため⑤に変更する。					
	④	全国的な図書離れ、活字離れなどから今後「貸出点数」の増加を目指すことは極めて困難と考えられることから⑥に変更する。					
	⑤	平成 26 年度は、募集定員 2,416 人に対し、参加人員 1,658 人であり参加率 68.6%となった。平成 32 年度の目標値は、平成 24 年度の参加率 84.2%に近づける。					
⑥	図書館の機能として本の貸し出しだけでなく多様な役割を模索することで、入館者数の増加は見込まれることから「図書館入館者数」を採用する。						
住民の 評価	生涯学習	満足度	【H20】 22.6% 【H26】 20.1% 【H29】 20.6% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -2%				
		改善度	【H26】 0.19 【H29】 0.33				
	図書館など社会 教育施設の充実	満足度	【H20】 41.0% 【H26】 33.7% 【H29】 35.7% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -5.3%				
		改善度	【H26】0.15 【H29】 0.16				
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 79% (中央値 89%) と低く、住民満足度についても生涯学習に関しては平成 29 年度評価では 20.6% (中央値 24%) と低い評価となっています。社会施設の充実の住民満足度については 35.7% と高いものの 5.3% の減少と評価が悪化する傾向がみられます。</p> <p>全体でみると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、高齢者の増加やライフスタイルの変化などの社会の変化に応じ様々な住民のニーズが増加してきていることから、ニーズを的確に把握し、住民が興味を持つような企画の立案や情報発信を行っていくことが求められます。また、図書館来館者数、貸出点数が減少傾向にあることから、特色のある図書館運営を行っていくことが求められます。</p>						

第2節	豊かな心をはぐくむ人づくり (子育て・教育)		第2項	生涯学習			
			推進施策	2 スポーツ振興			
担当課	スポーツ課	関係課	-		総合計画書 掲載ページ	95~97	
施策が目指す将来の姿		<p>・住民が体力づくりや健康づくりのために、関心や体力・環境に応じて、スポーツを楽しみながらふれあいを深めています。</p> <p>・一人ひとりの生き方にあうスポーツに取り組むことで、心身ともに美しく健康的な人生を送ることができる住みよいまちとなっています。</p>					
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	スポーツ施設の整備に満足している人の割合	%	24.8	24	20.6	25	82%
②	成人スポーツ実施率	%	43	49.3	(H32 実施)	55	-
③	スポーツ指導者数	人	140	204	241	200	121%
④	総合型地域スポーツクラブ数	団体	1	1	1	2	50%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							84%
指標の見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	目標値は、平成 32 年度までに建て替え計画や大幅な修繕計画などは現在ないことから、現在の満足度を維持することを目標として 25%とする。					
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、スポーツ活動の推進に対し関係性が強いことから指標として維持することとする。 目標値は、平成 26 年度で 49.3%と平成 32 年の目標値(50%)に迫る結果であり、生涯スポーツ振興委員会で検討し、実現可能な 55%とする。					
	③	原則としては見直しが求められる指標であるが、スポーツ活動の推進に対し関係性が強いことから指標として維持することとする。 目標値は、スポーツ少年団の活動や小中学校部活動外部指導者などにおいて、十分な指導者が確保されてり、少子化により児童生徒の数は減少していくこと、また高齢化などによりこれまでの指導者が辞めても、新たな登録者があることより現在の登録者数の維持目標とし、200 人とする。					
	④	目標値は、「中学校区に1つ」を目標としていた国の方針が、平成 24 年度に「市町村に1つ以上」に変更となったため2団体と設定する。					
住民の評価	満足度	【H20】 24.8% 【H26】 20.3% 【H29】 20.6% ⇒ 満足度変化率 【H29/H20】 -4.2%					
	改善度	【H26】 0.15 【H29】 0.16					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 84%(中央値 89%)と低く、住民満足度についても平成 20 年からも 4.2%減少しており平成 29 年度評価では 20.6%(中央値 24%)と若干低い評価となっています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取り組みを実施してきましたが、子どもたちの体力低下や体を動かす機会の減少が問題となっていることから、子どもたちの運動をする機会や環境整備が求められています。また、高齢者の運動による健康増進への意識が低い傾向にあることから、高齢者の運動による健康増進に対する意識醸成が望まれます。</p>						

第2節	豊かな心をはぐくむ人づくり (子育て・教育)		第2項 推進施策	生涯学習 3 文化振興				
担当課	生涯学習課	関係課	-		総合計画書 掲載ページ	98~100		
施策が目指す将来の姿		<ul style="list-style-type: none"> 文化センターや地区公民館を拠点として、住民がより高度な文化にふれ、生活の潤い向上に役立つ事業が開催され、人材が育成されています。 住民が郷土の歴史を学ぶことにより、文化財保護意識が高まるとともに、地域の文化的伝統行事が継承されています。 						
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	文化展の来場者数		人	1,015	1,173	803	1,300	62%
②	郷土資料館の来館者数		人	23,424	24,565	26,438	25,600	103%
③	ガイドボランティア登録者数		人	21	38	39	50	78%
④	文化振興に満足している人の割合 【追加】		%	-	18.2	19.7	19	104%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								87%
指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠								
指標の見直し		①	(変更なし)					
		②	目標値は、平成 22 年度から平成 26 年度までの増加人数を年数で割り 1 年の増加人数を算出し 25,600 人とする。					
		③	目標値は、平成 24 年度以降新規の登録者が年々減少しており、それまでと同等の増加は見込めないことから年間2名増加すると想定し 50 人とする。					
		④	平成 26 年度に行った「東浦町住民意識調査」に「文化振興に満足している人の割合」があることから、採用する。 目標値は、郷土資料館の来館者数の平成 26 年から平成 32 年の増加率 1.0421 を満足度の上昇率とし 19%とする。					
住民の評価		満足度	【H26】 18.2% (H20 調査なし) 【H29】 19.7% ⇒ 満足度変化率 【H29/H26】 + 1.5%					
		改善度	【H26】0.23 【H29】0.18					
評価		<p>成果指標の目標達成率は平均値で 87% (中央値 89%) と平均的な評価となっており、住民満足度については平成 29 年度評価では 19.7% (中央値 24%) と若干低い評価となっています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、地域の伝統文化の担い手が少なくなっており、伝統文化の担い手の確保・育成及び地域全体で支える仕組みが求められています。また、歴史に対する関心が低い傾向がみられることから、歴史に関する情報発信が望まれます。</p>						

第3節	安全安心な生活環境づくり (環境・防災・防犯)		第1項	環境共生			
			推進施策	1 地球温暖化防止			
担当課	環境課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	104~106
施策が目指す 将来の姿	・化石燃料から自然エネルギーに転換し、環境を意識した生活スタイルに改善するなど、住民、地域、事業者、行政の協働の取組みにより、「環境のまちひがしうら」が築かれています。						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	地球温暖化防止の取組みが積極的に行われていると感じている人の割合【廃止】	—	—	—	—	—	—
②	住民一人当たりのCO2(二酸化炭素)排出量【③④に変更】	—	—	—	—	—	—
③	一世帯当たりの電力年間消費量	kWh/世帯	—	3,494	H28以降非公開	3,343	—
④	一世帯当たりの都市ガス年間消費量	m ³ /使用世帯	—	384	364	342	94%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							94%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	中間実績値が目標と大きく乖離していることに加え、町行政の施策よりも社会情勢の影響を受けやすい指標であることから採用しないこととした。					
	②	③、④に変更する。					
	③	②に代えて「一世帯当たりの電力年間消費量」を採用する。 平成27年7月17日に環境省が決定した「日本の約束草案」では、国内の排出削減・吸収量の確保により平成42(2030)年度に平成25(2013)年度比26.0%減の水準にするとしている。これより換算すると、毎年1.53%削減となることから、平成25年度の電力使用量を基準値に平成32年度までに10.71%減として目標値を設定する。					
④	②に代えて「一世帯当たりの都市ガス年間消費量」を採用する。 ③と同様の根拠により、平成25年度の都市ガス年間消費量を基準値に平成32年度までに10.71%減として目標値を設定する。						
住民の 評価	満足度	【H26】11.2% (H20調査なし)【H29】12.8% ⇒ 満足度変化率【H29/H26】+1.6%					
	改善度	【H26】0.09 【H29】0.14					
評価	成果指標の目標達成率は平均値で94%(中央値89%)と若干高い評価となっているものの、住民満足度については平成29年度評価で12.8%(中央値24%)と低い評価となっています。 全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、温室効果ガスであるCO2の削減目標が達成できていないことから、住民、事業者、行政など全てが当事者意識を持って、温室効果ガス削減に向けて積極的な取組を行っていくことが求められています。						

第3節	安全安心な生活環境づくり (環境・防災・防犯)		第1項	環境共生			
			推進施策	2 公害			
担当課	環境課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	107~108
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・公害の存在しないまちをめざし、安全で安心して暮らせるまちになっています。 ・住宅地における生活型公害の苦情やトラブルも少なく、良好な地域コミュニティが形成されています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	騒音や振動、悪臭、大気汚染などの公害が少ないと感じている人の割合	—	—	—	—	—	—
②	環境測定地点における大気汚染の環境基準達成率【③に変更】	—	—	—	—	—	—
③	環境測定地点における環境基準達成率 (大気汚染、河川の BOD、ダイオキシン類濃度、騒音)【追加】	%	—	100	河川 BOD 3箇所未達成	全環境基準の達成	未達成
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							未達成
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	騒音や振動、悪臭などの感覚公害は、たとえ環境基準を満たしていても住民それぞれが受ける感覚や公害に対する考え方により差異が生じるため評価が難しいことから採用しないこととする。					
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、環境測定地点における環境基準達成は公害対策の基本となることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として大気汚染以外も含めた③に設定する。 目標値は変更しない。					
住民の 評価	満足度	【H26】 13.4% (H20 調査なし) 【H29】 15.6% ⇒ 満足度変化率【H29/H26】 +2.2%					
	改善度	【H26】 0.09 【H29】0.14					
評価	成果指標の目標は未達成となっており、住民満足度についても平成 20 年からも 2.2%上昇しているものの平成 29 年度評価で 15.6%(中央値 24%)と低い評価となっています。 全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、河川の水質改善が求められています。						

第3節	安全安心な生活環境づくり (環境・防災・防犯)		第1項	環境共生			
			推進施策	3 廃棄物			
担当課	環境課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	109～111
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・再資源化・再使用される物が増え、焼却・破碎による埋立てごみが減少しています。 ・各地区でフリーマーケットが活発に開催され、住民による再使用（リユース）が定着しています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	ごみの減量、リサイクル活動に満足している人の割合	%	44.6	44.3	42.2	47	90%
②	住民一人当たりのごみ排出量(資源ごみを除く)【変更】	kg	253	184	184	175	95%
③	住民一人当たりの資源化量【④に変更】	—	—	—	—	—	—
④	ごみ排出量に対する資源ごみ量の割合【追加】	%	—	22	20.2	24	84%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							90%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	第5次東浦町総合計画策定時は、平成 27 年度までに約 12%の増加を想定していたが、達成されていない。今後も策定時の 12%の増加を達成する可能性が低いため、その約半分の増加を目標とし、目標値を 47%とする。					
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、住民一人当たりのごみ排出量は、ごみの減量化の基本となることから引き続き指標として設定する。ただし、資源ごみ回収量を含むとごみ減量達成度が分かりにくいと、可燃・不燃ごみ量のみの排出量に変更する。 目標値は、平成 32 年度の目標値当初の目標値を踏襲し、「ごみ排出量」250kg/人-「資源化量」75kg/人=175kg/人と設定する。					
	③	原則としては継続が求められる指標であるが、中間実績値が目標と大きく乖離していることに加え、町行政の施策よりも社会情勢の影響を受けやすい指標であることから、再資源化に関する④に変更する。					
	④	環境基本計画に準じて、「ごみ排出量に対する資源ごみ量の割合」を採用する。 平成 24 年度から平成 26 年度までの住民 1 人当たりの資源化量の平均値は 56kg であり、平成 32 年度の資源ごみを除く住民一人当たりのごみ排出量の量目標値が 175kg であることから、平成 32 年度の住民 1 人当たりの資源化量が 56kg と想定し、目標値を 24%とする。					
住民の 評価	満足度	【H20】 44.6%	【H26】 44.3%	【H29】 42.2%	⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -2.4%		
	改善度	【H26】 0.42 【H29】 0.46					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 90%(中央値 89%)と平均的な評価となっているものの、住民満足度については平成 29 年度評価で 42.2%(中央値 24%)と高く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、使えるものでも、不要になれば「ごみ」として捨てられ、処分されていることから、住民や事業者から出されるごみの減量化が求められています。</p>						

第3節	安全安心な生活環境づくり (環境・防災・防犯)		第1項	環境共生				
			推進施策	4 自然環境保全				
担当課	環境課	関係課	都市整備課		総合計画書 掲載ページ	112~113		
施策が目指す 将来の姿		<ul style="list-style-type: none"> ・町内に緑豊かな自然があり、住民が自然とふれあい共生できるまちになっています。 ・住民だれもが自然環境に対する高い意識を有し、自然環境を大切にする生活を送っています。 ・自然を大切にし、他の生物との共存を図り自然と調和したまちになっています。 ・住民やボランティア団体が継続的な里山保全の活動を行い、地域に親しまれる里山となっています。 						
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	里山など豊かな自然環境が保全されていると感じている人の割合【廃止】		—	—	—	—	—	—
②	里山の保全活動参加者数【廃止】		—	—	—	—	—	—
③	河川のBOD(生物化学的酸素要求量)数値【廃止】		—	—	—	—	—	—
④	自然観察会において確認される生物の種数【追加】		種	—	95	117	100	117%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								117%
指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠								
指標の 見直し	① 町行政の施策よりも社会経済情勢やそれらを踏まえた国等の制度改正による影響を受けやすいことから、満足度による指標は採用しないこととする。							
	② 施策と指標との関連性が低いことから、これに代えて④を採用する。							
	③ 施策と指標との関連性が低いこと、第3節第1項推進施策2「公害」の基本成果指標になっていることから、これに代えて④を採用する。							
	④ ②、③に代えて、「自然観察会において確認される生物の種数」を採用する。 過去の自然観察会で確認できた生物の最高種数が100種であり、最高種数の生き物が観察できる環境を保全する観点から、目標値を100種とする。							
住民の 評価	満足度	【H26】 29.4% (H20 調査なし) 【H29】 28.9% ⇒ 満足度変化率【H29/H26】 -0.5%						
	改善度	【H26】 0.07 【H29】 0.0						
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で117%(中央値89%)と高くなっており、住民満足度についてはも平成29年度評価で28.9%(中央値24%)と若干高く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、里山等の自然環境の荒廃が進んでおり、自然環境の保全活動の啓発が求められています。また、外来種の動植物が侵入してきており、地域固有の動植物の保護が望まれます。</p>							

第3節	安全安心な生活環境づくり (環境・防災・防犯)		第2項	安全安心			
			推進施策	1 河川治水			
担当課	土木課	関係課	農業振興課			総合計画書 掲載ページ	114~117
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な雨水調整池が整備されるとともに、民地内に雨水貯留浸透施設の設置が推進され、豪雨時の排水量が抑制されています。 ・河川の改修や下水道の整備がされ、水害の危険性が軽減されるとともに、防災対策により被害が最小限になっています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	河川・ため池など水辺環境に満足している人の割合	%	18.2	22	20.9	26	80%
②	河川改修率【廃止】	—	—	—	—	—	—
③	公共下水道雨水幹線整備率【⑤に変更】	—	—	—	—	—	—
④	ポンプ場整備箇所数	—	—	—	—	—	—
⑤	公共下水道雨水整備率【追加】	%	—	54.9	56	62	90%
⑥	「雨水貯留浸透施設設置補助金」の件数【追加】	件	—	15	64	135	47%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							73%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	目標値は、平成 21 年度から平成 H26 年度の伸び率が 3.8%であることから、今後の河川整備予定を考慮し、同等の伸びと想定し 26%とする。					
	②	河川改修率は、県事業の改修が影響し、整備予定区間が確定していないため、指標から除外する。					
	③	住民の満足度との相関性を考慮すると、幹線のみを対象とするより、各宅地が接続する枝線を含めた整備面積から整備率を算出する方が指標に適していると考えられることから⑤に変更する。					
	④	平成 32 年度までにポンプ場の整備が計画されていないため、指標から除外する。					
	⑤	③に代えて「公共下水道雨水整備率」採用する。 目標値は、全体面積 1,066.45ha のうち、森岡ポンプ場の整備により、整備済面積が 664.01ha の予定であるため 62%とする。					
住民の 評価	満足度	【H20】 18.2% 【H26】 22.0% 【H29】 20.9% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】+2.7%					
	改善度	【H26】 0.13 【H29】 0.08					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 73%(中央値 89%)と若干低くなっており、住民満足度についても成 29 年度評価で 20.9%(中央値 24%)と若干低く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、雨水対策のための施設整備が十分ではないことから、優先順位を決め、施設整備を進めることが求められます。また、耐震性を満たしていないため池がみられることから、ため池の計画的な耐震改修が望まれます。</p>						

第3節	安全安心な生活環境づくり (環境・防災・防犯)		第2項	安全安心			
			推進施策	2 防災			
担当課	防災交通課	関係課	都市計画課			総合計画書 掲載ページ	118~120
施策が目指す 将来の姿	・「東浦町地域防災計画」に基づき施策を進め、防災施設の整備に努めることにより、災害に強いまちとなり、災害が発生した場合でも被害を最小限に食い止め、住民の生命を守り、一日も早い復興が進められる体制となっています。						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	消防、防災などの安全なまちづくりに満足している人の割合	%	29.3	30.2	31.3	40	78%
②	同報無線の設置世帯率	%	37	42	42.5	50	85%
③	防災リーダー研修受講者数	人	87	221	258	300	86%
④	住宅の耐震化率【追加】	%	—	—	78.7	95	83%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							83%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	(変更なし)					
	②	(変更なし)					
	③	(変更なし)					
④	地震発生時の住宅の倒壊による被害を最小限に食い止め、住民の生命を守る観点から、住宅の耐震化率を採用する。 目標値は、「東浦町耐震改修促進計画 改定版」の目標値 95%とする。						
住民の 評価	満足度	【H20】 29.3% 【H26】 30.2%【H29】 31.3% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +2.0%					
	改善度	【H26】 0.32 【H29】 0.31					
評価	成果指標の目標達成率は平均値で83%(中央値89%)と若干低くなっていますが、住民満足度については平成29年度評価で31.3%(中央値24%)と若干高く評価されています。 全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、南海トラフ巨大地震など大規模災害の発生が危惧されていることから、大規模災害への対応に向けた防災組織の体制強化が求められています。また、防災ラジオの普及や防災メールへの登録が充分でないことから、在宅時や外出時を問わず全住民への情報伝達が望まれます。						

第3節	安全安心な生活環境づくり (環境・防災・防犯)		第2項	安全安心			
			推進施策	3 消防・救急			
担当課	防災交通課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	121～122
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> 半田消防署東浦支署を東浦消防署に格上げすることにより、本町の常備消防体制がさらに充実しています。 AEDの設置や救命講習会等の受講者数の増加により、初期救急対応が強化されています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	消防、防災などの安全なまちづくりに満足している人の割合(再掲)	%	29.3	30.2	31.3	40	78%
②	救命講習会等の受講者数 (H21年からの累計)【変更】	人	2,309	10,966	15,863	22,000	72%
③	火災報知器の設置率【追加】	%	—	58.1	79.1	88	90%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							80%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	(変更なし)					
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、施策が目指す将来の姿に「AEDの設置や救命講習会等の受講者数の増加により、初期救急対応が強化されています。」とあることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として維持する。 目標値は、平成21年度からの累計とし、目標値を22,000人とする。					
	③	満足度との相関関係を補完するため、新たな指標として「火災報知器の設置率」を追加する。 目標値は、年間5%の増加をめざし88%とする。					
住民の 評価	満足度	【H20】29.3% 【H26】30.2%【H29】36.4% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】+7.1%					
	改善度	【H26】0.32 【H29】0.31					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で80%(中央値89%)と低いものの、住民満足度については成29年度評価で36.4%(中央値24%)と高く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、就労体系の変化により活動できる消防団員が減少していることから、時間帯を問わず活動できる消防団員の確保が求められています。</p>						

第3節	安全安心な生活環境づくり (環境・防災・防犯)		第2項	安全安心			
			推進施策	4 交通安全			
担当課	土木課、防災 交通課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	123~125
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所において交通安全施設が整備されるとともに、住民ボランティアの活動等も行われることにより、高齢者や子どもの交通事故が少なくなっています。 ・住民の交通安全意識が高まり、安全運転を心掛けるドライバーが増えています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	交通事故発生件数	件	259	227	239	218	91%
②	交通安全教室の開催回数	回	139	131	137	150	91%
③	交通安全対策に満足している人の割合 【追加】	%	—	24.6	26.7	26	103%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							95%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	中間実績値を踏まえて H32 年度の目標値を上方修正する。					
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、交通安全教室は住民の交通ルールの習得、交通安全意識や交通事故から身を守る意識の向上を図るため、重要なものであることから、引き続き指標として維持する。 目標値は変更しない。					
	③	平成 26 年度に行った「東浦町住民意識調査」に「交通安全対策に満足している人の割合」があることから、採用する。					
住民の 評価	満足度	【H20】 23.7% 【H26】 24.6% 【H29】 26.7% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +3.0%					
	改善度	【H26】 0.17 【H29】 0.22					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 95% (中央値 89%) と若干高いものの、住民満足度については平成 29 年度評価で 26.7% (中央値 24%) と平均的な評価となっています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、交通事故件数は減少傾向にあるものの、悲惨な交通事故が発生していることから、交通安全意識の向上や歩行者等の安全対策が求められます。</p>						

第3節	安全安心な生活環境づくり (環境・防災・防犯)		第2項	安全安心				
			推進施策	5 防犯				
担当課	防災交通課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	126～127	
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・住民一人ひとりが高い防犯意識を持ち、地域の防犯力向上のため、自主防犯活動に積極的に参加しています。 ・活発なコミュニティ活動により、近所同士の付き合いが維持されており、犯罪が起きない生活環境づくりが進んだ、安全で安心して暮らせる地域社会が形成されています。 							
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	刑法犯認知件数	件	679	407	289	350	121%	
②	防犯灯設置数	基	3,417	3,548	3,552	3,600	99%	
③	防犯ボランティア登録者数	人	340	722	826	794	104%	
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								108%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
	①	原則としては見直しが求められる指標であるが、刑法犯認知件数は、防犯に直接かかわる指標であることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として維持する。						
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、防犯灯の設置は、夜間の犯罪発生抑制や通行の安全確保等防犯に対して、大きな役割を果たすことから住民の評価に関わらず、引き続き指標として維持する。						
	③	原則としては見直しが求められる指標であるが、防犯ボランティアによる活動は、施策が目指す将来の姿に「活発なコミュニティ活動により、近所同士の付き合いが維持されており、犯罪が起きない生活環境づくりが進んだ、安全で安心して暮らせる地域社会が形成されています。」とあることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として維持する。						
	満足度	町行政の施策よりそれ以外のことから影響を受けやすいことから、満足度による指標は採用しないこととする。						
住民の 評価	満足度	【H20】 23.7% 【H26】 19.8%【H29】 25.3% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +1.6%						
	改善度	【H26】 0.10 【H29】 0.16						
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で108%(中央値89%)と高いものの、住民満足度については平成29年度評価で25.2%(中央値24%)と平均的な評価となっています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、刑法犯認知件数は減少傾向にあるものの、侵入盗などが発生しており、犯罪を起こさせない地域づくりが望まれます。</p>							

第4節	快適な暮らしを支える基盤づくり (基盤整備・産業振興)		第1項	市街地形成				
			推進施策	1 市街地				
担当課	都市計画課	関係課	企画政策課		総合計画書 掲載ページ	134~137		
施策が目指す将来の姿		<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地では、道路や公園などの基盤施設が整備され、安全で良好な市街地が維持・保全されています。 ・知多半島道路東浦知多インターチェンジ周辺地区、あいち健康の森周辺地区、主要幹線道路沿線などでは、新たな市街地が整備され、市街地の未利用地では、住宅地などが整備されています。 						
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	住宅、宅地、市街地の整備に満足している人の割合	%	29.9	26.8	28.3	32	88%	
②	市街化区域内の都市的土地利用率	%	82	86	85	90	94%	
③	空き地、空き家の利活用件数 (5年間の累計)【追加】	件	—	0(H27)	0	5	0%	
④	コンパクトなまちづくり計画の実現に向けた取組数【追加】	件	—	10(H27)	13	14(H31)	93%	
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							69%	
指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠								
指標の見直し	①	平成 21 年度(平成 20 年度実績値)の現状値 29.9%に対し、10 年間で 10%程度上昇(上昇率 1%/年)させるよう平成 27 年度 35%、平成 32 年度 40%として設定したが、平成 26 年度実績値が減少したため、実績値に対して上昇率 1%/年を目指し、平成 32 年度の目標値を 32%とする。						
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、市街化区域内の都市的土地利用率は、市街地形成の基本となることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として設定する。また、目標値はそのままとする。						
	③	②が満足度と相関関係が認められないこと及び近年の社会情勢を踏まえて「空き家、空き地の利活用数」を指標として追加する。目標値は、「東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略」と整合を図り、設定する。						
	④	③と同様のことから「コンパクトなまちづくり計画の実現に向けた取組数」を指標として追加する。目標値は、「東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略」と整合を図り、設定する。						
住民の評価	住宅・宅地・市街地の整備	満足度	【H20】 29.9% 【H26】 26.8% 【H29】 28.3% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -1.6%					
		改善度	【H26】 0.29 【H29】 0.3					
	緒川駅東地区の開発	満足度	【H20】 42.0% 【H26】 32.1% 【H29】 28.8% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -13.2%					
		改善度	【H26】 0.51 【H29】 0.48					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 69%(中央値 89%)と低いものの、住民満足度については住宅・宅地・市街地の整備で 28.3%(中央値 24%)、緒川駅東地区の開発で 28.8%(中央値 24%)と平均的な評価となっています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、既成市街地の中には、車のすれ違いができない生活道路や有効活用できない土地がみられることから、狭あい道路や未利用地の解消が求められています。また、少子高齢化や核家族化の影響により空き家が増加傾向にあることから、空き家の適正管理が望まれます。</p>							

第4節	快適な暮らしを支える基盤づくり (基盤整備・産業振興)		第1項	市街地形成			
			推進施策	2 公園・緑地			
担当課	都市整備課	関係課	協働推進課		総合計画書 掲載ページ	138～141	
施策が目指す将来の姿		<ul style="list-style-type: none"> 公園、公共施設はもとより、民有地の緑化が進み緑豊かなまちになっています。 住民が自分たちの公園・広場と意識し、住民参加での整備・管理が行われています。 					
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	公園、緑地の整備に満足している人の割合	%	38.8	31.2	32.6	35	93%
②	敷地の樹木や生垣など、まちに緑が多いと感じている人の割合	%	47.9	52.8	—	55	—
③	住民一人当たりの公園面積	m ²	7.1	7.3	7.6	7.6	100%
④	公園に関するアダルトプログラム(里親制度)の登録団体数	団体	—	12	12	16	75%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							89%
指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
指標の見直し	①	目標値は、総合計画策定時の目標値設定根拠である「現状値+5年間で概ね5%上昇」を踏襲し35%とする。					
	②	中間実績値と目標値で達成度の乖離はあるが、総合計画設定時の目標値とする。					
	③	原則としては見直しが求められる指標であるが、住民一人当たりの公園面積は、公園整備の基本となる基準であることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として設定する。 目標値は、三丁公園の完成を見込んで、住民一人当たり7.6 m ² とする。					
	④	住民参加による公園の整備・管理の成果指標として、「公園に関するアダルトプログラム(里親制度)の登録団体数」を採用する。 目標値は、環境基本計画の目標値を参考に16団体とする。					
住民の評価	満足度	【H20】38.8% 【H26】31.2% 【H29】32.6% ⇒ 満足度変化【H29/H20】-6.2%					
	改善度	【H26】0.28 【H29】0.27					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で89%(中央値89%)と平均的な評価となっているものの、住民満足度については平成29年度評価で32.6%(中央値24%)と高く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、行政主導で行っている公園管理では利用者ニーズに十分な対応ができていない面があることから、行政と住民で役割を分担し、利用者ニーズの多様化への柔軟な対応が求められています。また、市街地における民有地の緑化や、保全すべき緑地の管理が十分でないことから、緑地の適切な管理や利活用に向けた、住民主体の保全活動が望まれます。</p>						

第4節	快適な暮らしを支える基盤づくり (基盤整備・産業振興)		第2項	交通体系				
			推進施策	1 道路交通				
担当課	土木課	関係課	-		総合計画書 掲載ページ	142~144		
施策が目指す将来の姿		<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路が整備され、周辺市町及び町内の円滑な通行ができ、住民の利便性が向上しています。 ・交通量が多く、生活と密接している生活道路の拡幅や歩行空間の整備により、住民の安全性が確保されています。 						
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	道路の整備に満足している人の割合	%	27.3	23.1	23.8	37	64%	
②	都市計画道路の整備率	%	44	47	47	48	98%	
③	幅員4m未満道路の改良延長	m	-	1,352	1,922	3,000	64%	
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								75%
指標の見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
	①	現在の指標を継続した上で、効果のある基本事業により改善をする必要がある。目標値に関し、平成26年度に行った「東浦町住民意識調査」で、満足1.9%、まあ満足21.2%、どちらとも言えない43.8%、やや不満19.5%、不満7.6%、未回答6.0%となっている。「やや不満」「不満」と回答した方の概ね半数が、今後「満足」「まあ満足」と感じていただけるようにすることを目標とし、「やや不満」「不満」の27.1%の2分の1を「満足」「まあ満足」の23.1%に加えた値を目標値とする。						
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、都市計画道路は幹線道路整備の基本となることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として設定する。目標値は、整備を予定していた(都)養父森岡線の整備時期を他路線と実施時期を調整したため下方修正し、48%とする。						
	③	原則としては見直しが求められる指標であるが、「幅員4m未満道路の改良延長」は生活と密接している生活道路の整備であることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として設定する。目標値は変更しない。						
住民の評価	幹線道路の整備	満足度	【H20】28.2% 【H26】25.2% 【H29】23.8% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -4.4%					
		改善度	【H26】0.23 【H29】0.23					
	生活道路の整備	満足度	【H20】27.3% 【H26】23.1% 【H29】23.3% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -4.0%					
		改善度	【H26】0.51 【H29】0.15					
	歩行環境の整備	満足度	【H26】18.2% (H20 調査なし) 【H29】20.8% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +2.6%					
		改善度	【H26】0.12 【H29】0.16					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で75%(中央値89%)と低いものの、住民満足度については平成29年度評価では20%程度(中央値24%)と平均的な評価となっています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、西三河地区を結ぶ橋の不足及び、幹線道路の未整備等により特に朝夕で広域的に渋滞が発生しており、産業の効率化に向けた円滑かつ安全な道路網の整備が求められています。また、狭あい道路については、交通の混雑や、緊急車両が通行できないなどの問題がみられることから、狭あい道路の拡幅や歩道の確保が望まれます。</p>							

第4節	快適な暮らしを支える基盤づくり (基盤整備・産業振興)		第2項	交通体系			
			推進施策	2 公共交通			
担当課	防災交通課	関係課	都市計画課			総合計画書 掲載ページ	145～147
施策が目指す 将来の姿	・隣接市町との連携により、他市町への乗り継ぎも可能な行政バスの運行形態や、広域での運行により、利用者が望む路線が運行されています。						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	公共交通機関に満足している人の割合	%	38	34.6	30	40.6	74%
②	町運行バス「う・ら・ら」利用者数	人	237,054	256,381	255,814	290,000	88%
③	パーク＆ライド利用率【追加】	%	17	17	7.8	80(H31)	10%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							57%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	中間実績値を踏まえて H32 年度の目標値を下方修正する。					
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、町運行バス「う・ら・ら」は公共交通に関し町行政が関与する主要な施策であり、利用者数を指標とすることは適切であることから、引き続き指標として設定する。					
	③	満足度以外の指標が②のみであり、また②が満足度と相関関係が認められないことから「パーク＆ライド利用率」を指標として採用する。					
住民の 評価	満足度	【H20】 38.0% 【H26】 34.6% 【H29】 30.0% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -8.0%					
	改善度	【H26】 0.34 【H29】 0.31					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 57% (中央値 89%) と低いものの、住民満足度については平成 29 年度評価で 30.0% (中央値 24%) と高く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、町運行バス「う・ら・ら」へのニーズ多様化しており、ニーズに対応したダイヤ、ルートの見直しなど利便性の向上が求められています。また、バリアフリー化されていない鉄道駅がみられることから、町内すべての鉄道駅のバリアフリー施設・設備の整備が望まれます。</p>						

第4節	快適な暮らしを支える基盤づくり (基盤整備・産業振興)	第3項 推進施策	上下水道 1 水の安定供給				
担当課	上下水道課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	148～150
施策が目指す 将来の姿	・老朽管の更新時には、耐震管への切り替えを行うとともに、老朽化した水道施設の更新を行い、緊急時でも安定した水の供給が図られています。						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	水道事業の有収率	%	94.2	95.9	95.5	96	99%
②	水道管の耐震化率	%	18.1	28.6	31	34	91%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							95%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	平成 26 年度の実績値が、平成 27 年度の目標値を上回ったことから、平成 32 年度の目標値を 95%から 96%に上方修正する。					
	②	東浦町水道基本計画に基づき、整備を行っていき、平成 32 年度末における耐震化の対象としている口径 75mm 以上の配水管延長約 206km の内、新設・更新により耐震化される配水管の延長は約 71km となるため、耐震化率の目標値を 34%とする。					
満足度	水の安定供給について住民の改善度に対する評価が高いことに加え、今後行う事業は、水道管の耐震化等が中心となり、直接的に住民の満足度向上につながりにくいことから、満足度による指標は採用しないこととする。						
住民の 評価	満足度	【H26】 52.2% (H20 調査なし)【H29】 51.7% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -0.5%					
	改善度	【H26】 0.33 【H29】 0.34					
評価	成果指標の目標達成率は平均値で 95%(中央値 89%)と若干高く、住民満足度についても平成 29 年度評価では 51.7%(中央値 24%)と高く評価されています。 全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、水道管の老朽化が進行しており、水道管の改修が求められています。						

第4節	快適な暮らしを支える基盤づくり (基盤整備・産業振興)	第3項 推進施策	上下水道 2 下水処理					
担当課	上下水道課	関係課	—				総合計画書 掲載ページ	151～153
施策が目指す 将来の姿	・公共下水道の整備により、快適な生活ができる住みよい環境になっています。							
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率	
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②	
①	公共下水道普及率	%	66	75.5	80.9	85	95%	
②	水洗化率	%	85	82.6	80	84	95%	
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							95%	
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
	①	(変更なし)						
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、水洗化率は下水処理の基本となることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として設定する。 目標値は、計画普及人口 43,330 人に対し、水洗人口 36,322 人を目標とする。						
住民の 評価	満足度	【H26】 44.5% (H20 調査なし)【H29】 45.9% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +1.4%						
	改善度	【H26】 0.36 【H29】 0.4						
評価	成果指標の目標達成率は平均値で 95%(中央値 89%)と若干高く、住民満足度についても平成 29 年度評価では 45.9%(中央値 24%)と高く評価されています。 全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、下水道への接続が進まない反面、既存の下水道施設が老朽化しており、下水道への接続推進と、計画的な改修が求められます。							

第4節	快適な暮らしを支える基盤づくり (基盤整備・産業振興)		第4項	産業振興			
			推進施策	1 農業振興			
担当課	農業振興課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	154～156
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> 都市近郊の立地条件をいかした環境保全、資源循環型農業に取組み、地産地消に対応した特産品を消費者へ提供できる営農環境が整っています。 持続可能な省力化した農業へ転換し、担い手の確保、農地の利用集積・有効利用が図られています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	農業振興に満足している人の割合 【③に変更】	—	—	—	—	—	—
②	耕作放棄地面積	ha	100	109	41	100	244%
③	新規就農者数(5年間)【追加】	人	—	5	2	5	40%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							142%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	農業振興に対する住民の評価は、町行政の施策よりも社会経済情勢やそれらを踏まえた国の施策による影響を受けやすいことから、満足度による指標は採用しないこととし、これに代わる成果指標として③の指標を設定する。					
	②	目標値に関し、平均的に年間 2,000 m ² 程度新たに耕作放棄地が発生するが、平成 23 年度から毎年2ha ずつ減少させるペースを継続していくことを目標とする。					
	③	①に代えて、「新規就農者数(5年間)」を採用する。 目標値は、1年間に1人として5年間で5人とする。					
住民の 評価	満足度	【H20】 11.5% 【H26】 9.1% 【H29】 11.0% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -0.5%					
	改善度	【H26】 0.02 【H29】 0.05					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で142%(中央値89%)と高いものの、住民満足度については平成29年度評価では11.0%(中央値24%)と低く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、遊休農地が増加していることから、遊休農地の解消のため農地の利用促進が求められています。また、農業の担い手の高齢化と後継者不足が進んでおり、新規就農などの農業の担い手不足の解消が望まれます。</p>						

第4節	快適な暮らしを支える基盤づくり (基盤整備・産業振興)		第4項 推進施策	産業振興 2 工業振興			
担当課	商工振興課	関係課	企画政策課			総合計画書 掲載ページ	157～159
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知多半島道路東浦知多インターチェンジ周辺の地理的特性をいかした流通業や工場が、周囲の自然環境との調和を図りながら建設され、計画的なまちづくりが行われています。 ・ 健康長寿に関する産業の創出と雇用の拡大を図るために「ウェルネスバレー構想」の実現に向けた基盤整備が行われています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	製造品出荷額【④に変更】	—	—	—	—	—	—
②	事業所の従業者数	人	6,317	5,358	5,528	5,500	101%
③	工業振興に満足している人の割合 【追加】	%	—	9.6	9.8	10	98%
④	町内企業と医療・福祉関係との製品 マッチング件数【追加】	件	—	0	2	5	40%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							80%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	原則としては継続が求められる指標であるが、中間実績値が目標と大きく乖離していることに加え、町行政の施策よりも社会情勢の影響を受けやすい指標であることから採用しないこととし、これに代わる成果指標として④の指標を設定する。					
	②	工業統計では、従業者数が年々減少していること、及び、多くの従業者が働く新たな工場の立地が現状では見込めないことからほぼ横ばいとし、目標値を 5,500 人とする。					
	③	平成 26 年度に行った「東浦町住民意識調査」に「工業振興対策に満足している人の割合」があることから、採用する。 目標値は、本町において劇的に工場が増えるということがなければ満足度が増加するとは考えにくいので、ほぼ横ばいの 10%とする。					
④	①に代えて、「町内企業と医療・福祉関係との製品マッチング件数」を指標に採用する。 目標値は、「東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略」と整合を図り、設定する。						
住民の 評価	満足度	【H20】 16.0% 【H26】 9.6%【H29】 9.8% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -6.2%					
	改善度	【H26】 0.04 【H29】 0.04					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 80%(中央値 89%)と低く、住民満足度についても平成 29 年度評価で 9.8%(中央値 24%)と低く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、中小企業の多くは景気の影響を受けやすいことから、中小企業が安定的に経営するための支援が求められます。また、進出希望の企業へ斡旋する用地が不足していることから、新たな工業用地等の確保が望まれます。</p>						

第4節	快適な暮らしを支える基盤づくり (基盤整備・産業振興)		第4項	産業振興				
			推進施策	3 商業振興				
担当課	商工振興課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	160～162	
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模商業施設を核にまち全体の商業活性化策を行い、地域の核となる魅力ある商業が形成された、にぎわいのあるまちになっています。 ・町内の中小企業者への融資の円滑化を図り、事業主の経営基盤の強化が図られています。 							
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	小売業年間販売額	億円	607	432	442	380	116%	
②	小売業商店数	戸	291	218	210	200	105%	
③	商業振興に満足している人の割合 【追加】	%	—	12.5	13	13	100%	
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								107%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
	①	小売業年間販売額は、近年の動向を踏まえると、平成 32 年度には現状より 15%程度減少し約 367 億円程度になると想定されるが、大規模店での免税品販売等のインバウンド需要の増加も勘案し、目標値を 380 億円とする。						
	②	小売業商店数は平成 19 年度から平成 26 年度にかけて 25%減少しており、今後も高齢の経営者が営む小売店を中心に廃業が続くと考えられる。これに対し、創業支援事業などによる新規創業等を考慮し、若干の減少に抑えることを目標とし、目標値を 200 戸とする。						
	③	平成 26 年度に行った「東浦町住民意識調査」に「商業振興対策に満足している人の割合」があることから、採用する。 目標値は、本町において劇的に商店が増えるということがなければ満足度が増加するとは考えにくいいため、ほぼ横ばいの 13%とする。						
住民の 評価	満足度	【H20】 16.0% 【H26】 12.5%【H29】 13.0% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -3.0%						
	改善度	【H26】 0.05 【H29】 0.08						
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 107%(中央値 89%)と高いものの、住民満足度については平成 29 年度評価では 13.0%(中央値 24%)と低く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、大型店舗やネット販売等の充実によって、地元の商店等が減っており、安定した経営ができるよう、時代に合わせた店づくりが求められています。また、事業者の高齢化や後継者不足から事業の廃業が増加しており、後継者の育成や起業を目指す人への支援を行っていくことが望まれます。</p>							

第4節	快適な暮らしを支える基盤づくり (基盤整備・産業振興)		第4項	産業振興				
			推進施策	4 観光振興				
担当課	商工振興課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	163～164	
施策が目指す 将来の姿	・ 於大まつりやぶどう狩りなどの観光資源の積極的なPRや住民の交流の輪を広げながら、新たな観光資源を掘り起こし、ネットワーク化することでまちの魅力が高まっています。							
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	於大まつり参加者数		人	12,000	14,000	15,000	15,000	100%
②	産業まつり参加者数		人	20,000	21,000	24,000	24,000	100%
③	観光振興対策に満足している人の割合 【追加】		%	—	8.6	9.9	9	110%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								103%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
	①	原則としては継続が求められる指標であるが、於大まつりは本町の春まつりとして住民や他市町村にも周知されており観光振興に寄与していることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として設定する。 目標値は変更しない。						
	②	原則としては継続が求められる指標であるが、産業まつりは「秋祭り」として定着していることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として設定する。 目標値に関し、現状の会場では、新たな物産販売等の場所の確保も難しく参加者数の増加についても会場のスペースの関係上、現状より大幅な増加は困難であると考えられることから、目標値を24,000人とする。						
③	平成26年度に行った「東浦町住民意識調査」に「観光振興対策に満足している人の割合」があることから、採用する。 目標値は、町外からの観光客が増えることにより商店がにぎわうということがなければ満足度が増加するとは考えにくいため、ほぼ横ばいの9%とした。							
住民の 評価	満足度	【H26】 8.6% (H20 調査なし)【H29】 9.9% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +1.3%						
	改善度	【H26】 0.04 【H29】 0.03						
評価	成果指標の目標達成率は平均値で103%(中央値89%)と高いものの、住民満足度については平成29年度評価で9.9%(中央値24%)と低く評価されています。 全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、特産品である東浦ぶどうの知名度にかげりがみえるようになっていきます。また、観光資源などの知名度は低い傾向にあることから、観光PRの強化が求められます。また、住民が町内の魅力を知らないことが多いことから、住民も楽しめる観光事業を行っていくことが望まれます。							

第4節	快適な暮らしを支える基盤づくり (基盤整備・産業振興)	第4項 推進施策	産業振興 5 勤労・消費生活				
担当課	商工振興課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	165～166
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・勤労者のための施設・制度を活用し、勤労者の福利厚生が充実しています。 ・ハローワークと企業との連携が強化され、雇用環境の向上と勤労者福祉の充実が図られています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	わーくりに知多会員数	人	745	834	795	900	88%
②	勤労者福祉・消費者生活に満足している人の割合【追加】	%	—	8.7	10.4	9	116%
③	勤労福祉会館の利用件数	件	—	2,477	2,803	3,000	93%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							99%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	原則としては継続が求められる指標であるが、本町は「わーくりに知多」に委託し、中小企業の勤労者の福利厚生の充実を図っていることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として設定する。目標値は、平成 26 年度の中間実績値が平成 32 年度の目標値を上回っていることから上方修正し、900 人とする。					
	②	平成 26 年度に行った「東浦町住民意識調査」に「勤労者福祉・消費者生活対策に満足している人の割合」があることから、採用する。目標値は、大きな増加が見込めないことから現状維持を基本とし 9%とする。					
	③	満足度との相関性を考慮し、新たな指標として「勤労福祉会館の利用件数」を追加する。目標値は、大きな増加が見込めないことから 3,000 件とする。					
住民の 評価	満足度	【H26】 8.7% (H20 調査なし)【H29】 10.4% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +1.7%					
	改善度	【H26】 0.02 【H29】 0.05					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 99% (中央値 89%) と高いものの、住民満足度については平成 29 年度評価で 10.4% (中央値 24%) と低く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、今後もハローワークと企業との連携を強化し、雇用環境の向上を図っていくことが求められます。</p>						

第5節	自立した地域経営の仕組みづくり (地域経営)		第1項	共生・協働			
			推進施策	1 住民協働			
担当課	協働推進課	関係課	全庁	総合計画書 掲載ページ	172～174		
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・住民と地域組織、NPO、ボランティア、事業者、行政が、それぞれの特長をいかして連携し、補い合うことによって、地域の課題にきめ細かく対応する取組みが進んでいます。 ・さまざまな分野の自主的な活動に参加し、生きがいを感じながら活動している住民が増えています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値 H21	中間実績値 H26	実績値 H28 ①	最終目標値 H32 ②	目標達成率 ①/②
①	行政の行う事業に連携して活動する目的型組織の団体数	団体	26	65	64	75	85%
②	アダプトプログラム(里親制度)の登録団体数	団体	5	30	37	40	93%
③	行政と協働したまちづくりに満足している人の割合【追加】	%	—	13.9	17.3	17	102%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							93%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	原則としては見直しが求められる指標であるが、行政の行う事業に連携して活動する目的型組織の育成は住民協働において重要な施策であることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として設定する。 目標値は、今後1年間に2団体増加すると想定し75団体とする。					
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、アダプトプログラム(里親制度)は住民協働において重要な施策であることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として設定する。 目標値は、環境基本計画と同様に今後1年間に2団体増加すると想定し40団体とする。					
	③	平成26年度に行った「東浦町住民意識調査」に「行政と協働したまちづくりの満足度」があることから、採用する。 目標値に関し、行政と協働したまちづくりは住民にとって認識しづらく時間を要することから、2年間で1%増加すると想定し17%とする。					
住民の 評価	満足度	【H26】13.9% (H20 調査なし) 【H29】17.3% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】+3.4%					
	改善度	【H26】0.12 【H29】0.2					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で93%(中央値89%)と若干高いものの、住民満足度については平成29年度評価で17.3%(中央値24%)と低く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、地域で活動する団体等が増えつつあることから、団体等が連携、協力しやすい環境を整備していくことが求められます。</p>						

第5節	自立した地域経営の仕組みづくり (地域経営)		第1項	共生・協働			
			推進施策	2 コミュニティ活動			
担当課	協働推進課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	175～176
施策が目指す 将来の姿	・多くの住民が地域への関心を持ち、相互扶助の精神のもとで住民主体によるコミュニティ活動が展開され、だれもが安心して暮らすことができる地域社会が形成されています。						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	地域コミュニティや住民参加活動に満足している人の割合	%	24.5	27	28.3	30	94%
②	コミュニティ会員数	世帯	13,097	13,361	13,234	13,400	99%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							97%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	目標値は、平成 21 年度から平成 26 年度の伸び率を基に、1年間に 0.5%の増加を想定し 30%とする。					
	②	中間実績値を踏まえて H32 年度の目標値を下方修正する。					
住民の 評価	満足度	【H20】 24.5% 【H26】 27.0% 【H29】 28.3% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +3.8%					
	改善度	【H26】 0.22 【H29】 0.25					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 97%(中央値 89%)と高いものの、住民満足度については平成 29 年度評価で 28.3%(中央値 24%)と平均的な評価をされています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、地域の課題が多様化、複雑化していることから、多様化・複雑化した地域課題に取り組む担い手の確保、育成が求められます。</p>						

第5節	自立した地域経営の仕組みづくり (地域経営)		第1項	共生・協働				
			推進施策	3 広報・広聴				
担当課	広報情報課	関係課	—			総合計画書 掲載ページ	177~178	
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> 多様な広報・広聴の手法を活用して、住民と行政が情報を共有化することにより、行政への信頼性が高まり、公正で開かれた行政の推進が図られています。 地域住民が広報・回覧板やホームページを通じて情報を共有し合い、お互いに助け合い、支え合う地域社会になっています。 							
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	ホームページ、情報公開に満足している人の割合		%	17.9	23.8	24.7	30	82%
②	ホームページアクセス件数		件	24,583	55,418	44,161	70,000	63%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								73%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
	①	(変更なし)						
	②	ホームページアクセス件数は、平成 21 年度から平成 23 年度まで、前年度比約 3,000 件増で推移していた。また、平成 25 年度に翻訳サービスを開始したことにより、約 11,000 件増加した。しかし、翻訳サービス開始から3年経ったこと、ある程度ホームページの閲覧が定着したことなどにより、アクセス件数増加が鈍化すると予測される。このため、平成 32 年度には約 3,000 件増の月平均 70,000 件程度になると想定し、目標値を 70,000 件とする。						
住民の 評価	満足度	【H20】 17.9% 【H26】 23.8% 【H29】 24.7% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +6.8%						
	改善度	【H26】 0.28 【H29】 0.35						
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 73% (中央値 89%) と低く、住民満足度については平成 29 年度評価で 24.7% (中央値 24%) と平均的な評価をされています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、多くの住民が広報紙やホームページから町政に関する情報を取得していることから、よりわかりやすく積極的な町政に関する情報発信が求められます。</p>							

第5節	自立した地域経営の仕組みづくり (地域経営)		第1項	共生・協働			
			推進施策	4 共生・交流			
担当課	協働推進課	関係課	全庁			総合計画書 掲載ページ	179～181
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・本町に生活するすべての外国人が、安心して地域に溶け込めるような社会となっています。 ・男女が互いを理解し合い、協力し合って維持発展させるような社会となっています。 						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	多文化共生に満足している人の割合	%	9.5	10.4	11.7	12	98%
②	各種委員会の女性委員率	%	29	27.2	29.8	40	75%
③	日本語教室の開催数【追加】	回	—	24	24	48	50%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							74%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	目標値は、平成 20 年度から平成 26 年度の満足度増加率(9.47%)が今後とも同様に推移すると想定し 12%とする。					
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、各種委員会の女性委員率は、男女共同参画の推進において重要であることから、引き続き指標として設定する。 目標値は、変更しない。					
③	満足度との相関性を考慮し、新たな指標として多文化共生の推進の主な事業である「日本語教室」の開催数を採用する。 目標値は、現在月2回の開催を、月4回開催することを目標とし、1年間に 48 回とする。						
住民の 評価	満足度	【H20】 9.5% 【H26】 10.4%【H29】 11.7% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +2.2%					
	改善度	【H26】 0.08 【H29】 0.13					
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 74%(中央値 89%)と低く、住民満足度についても平成 29 年度評価で 11.7%(中央値 24%)と低く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、地域の中で生活する外国人が増えていることから、外国人が暮らしやすい環境を整備していくことが求められます。また、性別による役割分担意識や地位に対する不平等感がみられることから、性別による役割分担があることを当然と考える意識を解消していくことが望まれます。</p>						

第5節	自立した地域経営の仕組みづくり (地域経営)		第2項	行財政運営				
			推進施策	1 行政運営				
担当課	企画政策課	関係課	秘書人事課			総合計画書 掲載ページ	182~183	
施策が目指す 将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する住民ニーズや専門的な事案に対し、迅速に対応できる職員と組織体制が整い、快適な住民生活に必要な行政サービスが提供されています。 総合計画に基づいて、PDCAサイクルが確立され、効率的な行政運営が行われています。 							
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	行政サービスに満足している人の割合		%	36.1	48.1	48.8	60	81%
②	人口千人当たりの職員数		人	7.1	7.1	7.2	7	97%
③	行政評価における事業達成率		%	68.6	47	76	80	95%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								91%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
	①	目標値に関し、平成26年度に行った「東浦町住民意識調査」で、満足6.3%、まあ満足41.8%、どちらとも言えない35.6%、やや不満7.6%、不満3.8%、未回答4.8%となっている。「やや不満」「不満」と回答した方が、今後「満足」「まあ満足」と感じていただけるようにすることを目標とし、「やや不満」「不満」の11.4%を「満足」「まあ満足」の48.1%に加えた値を目標値とする。						
	②	原則としては見直しが求められる指標であるが、「人口千人当たり職員数」は適正な行財政運営において基本的な指標であることから引き続き指標として設定する。 目標値は変更しない。						
	③	原則としては見直しが求められる指標であるが、「行政評価における事業達成率」は適正な行財政運営において基本的な指標であることから引き続き指標として設定する。 目標値は変更しない。						
住民の 評価	満足度	【H20】36.1% 【H26】48.1%【H29】48.8% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】+12.7%						
	改善度	【H26】0.32 【H29】0.35						
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で91%(中央値89%)と平均的な評価となっているものの、住民満足度については平成29年度評価で48.8%(中央値24%)と高く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、少子高齢化の進行や住民ニーズの多様化など、社会情勢の変化により行政の役割が増加してきていることから、社会情勢の変化などにより増加する行政の役割に柔軟に対応できる行政運営が求められてきています。</p>							

第5節	自立した地域経営の仕組みづくり (地域経営)		第2項	行財政運営			
			推進施策	2 財政運営			
担当課	財政課	関係課	税務課			総合計画書 掲載ページ	184~185
施策が目指す 将来の姿	・健全な財政運営により、多様化する行政需要に的確に対応できる行政が行われていま す。						
基本成果指標【見直し】		単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
			H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	経常収支比率	%	86.3	88	85.5	87	102%
②	実質公債費比率	%	7.3	2.4	1.3	8	615%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】							359%
指標の 見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠						
	①	目標値は、過去5年間(平成 20 年度から平成 26 年度まで)の実績平均が 87.58%であることから、 その数値より改善することを目標とし、87%とする。					
	②	実質公債費比率は、事業を抑制し起債を抑えた結果平成 22 年度以降の数値は縮小してきたが、今 後は公共施設の更新など起債を必要とする事業が増えることが予想されるため、目標値の見直しは 行わない。					
	満足 度	財政運営に関しては、住民による評価がしづらいつと考えられるため、満足度による指標は採用しない こととする。					
住民の 評価	満足度	【H26】 15.8% (H20 調査なし) 【H29】 20.0% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +4.2%					
	改善度	【H26】 0.08 【H29】 0.16					
評価	成果指標の目標達成率は平均値で 359%(中央値 89%)と非常に高いものの、住民満足度では平成 29 年度評価で 20.0%(中央値 24%)と若干低く評価されています。 全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、生産年齢人口 の減少により、税収が減り、高齢化等で社会保障費が増え、財政を圧迫することが予想されおり、税収減 や社会保障費増への対応と、歳入規模に見合った歳出規模への転換が望まれます。						

第5節	自立した地域経営の仕組みづくり (地域経営)		第2項	行財政運営				
			推進施策	3 広域連携				
担当課	企画政策課	関係課	全庁			総合計画書 掲載ページ	186~187	
施策が目指す将来の姿		<ul style="list-style-type: none"> ・広域によるスケールメリットをいかし、より多角的かつ広域的なサービスの提供により住民の利便性が高まっています。 ・行政間の連携による効率的な事務処理により経費の節減が図られています。 						
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	広域的事業実施数		件	12	16	17	16	106%
②	近隣市町との広域連携に満足している人の割合【追加】		%	—	19.2	18.6	50	37%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								72%
指標の見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
	①	原則としては見直しが求められる指標であるが、広域的事業実施が広域連携のもととなることから、住民の評価に関わらず、引き続き指標として設定する。 目標値に関し、平成 21 年度実績は 12 件であったものを、市町間の連携により相互のメリットが発揮されるような事業について、広域連合や一部事務組合等を設立して事業を進め現在 16 件である。今後この体制で効果的な行財政運営を図り、広域的事業を推進していくことから、現状と同等の 16 件とする。						
	②	平成 26 年度に行った「東浦町住民意識調査」に「近隣市町との広域連携」に満足している人の割合があることから、採用する。 目標値は、「東浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略」と整合を図り、設定する。						
住民の評価	満足度	【H26】 19.2% (H20 調査なし) 【H29】 18.6% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 -0.6%						
	改善度	【H26】 0.17 【H29】 0.16						
評価	成果指標の目標達成率は平均値で 72% (中央値 89%) と低く、住民満足度についても平成 29 年度評価で 18.6% (中央値 24%) と低く評価されています。 全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、複数の自治体で対応した方が効率的な行政サービスがあることから、近隣自治体等との相互連携による協力体制の強化が求められています。							

第5節	自立した地域経営の仕組みづくり (地域経営)		第2項	行財政運営				
			推進施策	4 地域情報化				
担当課	広報情報課	関係課	全庁	総合計画書 掲載ページ	188～190			
施策が目指す将来の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・住民がいつでもどこでも行政サービスを利用できる電子自治体が形成されています。 ・情報セキュリティ対策が充実し、住民が安心できる行政運営が図られています。 							
基本成果指標【見直し】			単位	現状値	中間実績値	実績値	最終目標値	目標達成率
				H21	H26	H28 ①	H32 ②	①/②
①	電子申請・届出可能業務【廃止】		—	—	—	—	—	—
②	施設予約システム利用実績件数【追加】		件	—	12,832	2,975	13,601	22%
成果指標による評価【目的達成率の平均値】								22%
指標の見直し	指標見直しの考え方 及び H32 目標値の設定根拠							
	①	原則としては継続が求められる指標であるが、申請手続き自体は、電子で可能であるものの、納付の仕組みがないなどの事情により、利用実績が極めて少ないような手続きは、廃止等見直しが行なわれていることや、年度によりイベント開催に伴う募集案件数や各種教室の開催回数に変動があり、電子申請・届出が可能な業務数が多いという状況が、そのまま「施策がめざす将来の姿」に繋がるものでないと考えため採用しない。						
	②	①に代えて、住民に身近な施設予約システムがオンラインにて多数使用されている状況は、施策の将来像である「電子自治体の形成」に寄与するものと考えことから「施設予約システム利用実績件数」を採用する。 目標値は、1年間に1%増加すると想定して 13,601 件とする。						
	満足度	情報通信技術を活用したサービスに対する住民の評価は、町が実施する情報通信サービスよりも、県や国など社会全体から享受している電子自治体サービスによる影響を受けやすいことから、満足度による指標は採用しないこととする。						
住民の評価	満足度	【H26】 16.0% (H20 調査なし) 【H29】 17.0% ⇒ 満足度変化率【H29/H20】 +1.0%						
	改善度	【H26】 0.18 【H29】 0.22						
評価	<p>成果指標の目標達成率は平均値で 22%(中央値 89%)と低く、住民満足度についても平成 29 年度評価では 17.0%(中央値 24%)と低く評価されています。</p> <p>全体で見ると、成果指標及び住民満足度に繋がる充実した取組みを実施してきましたが、今後も住民がいつでもどこでも行政サービスを利用できる電子自治体への取組を進めていくことが求められます。</p>							